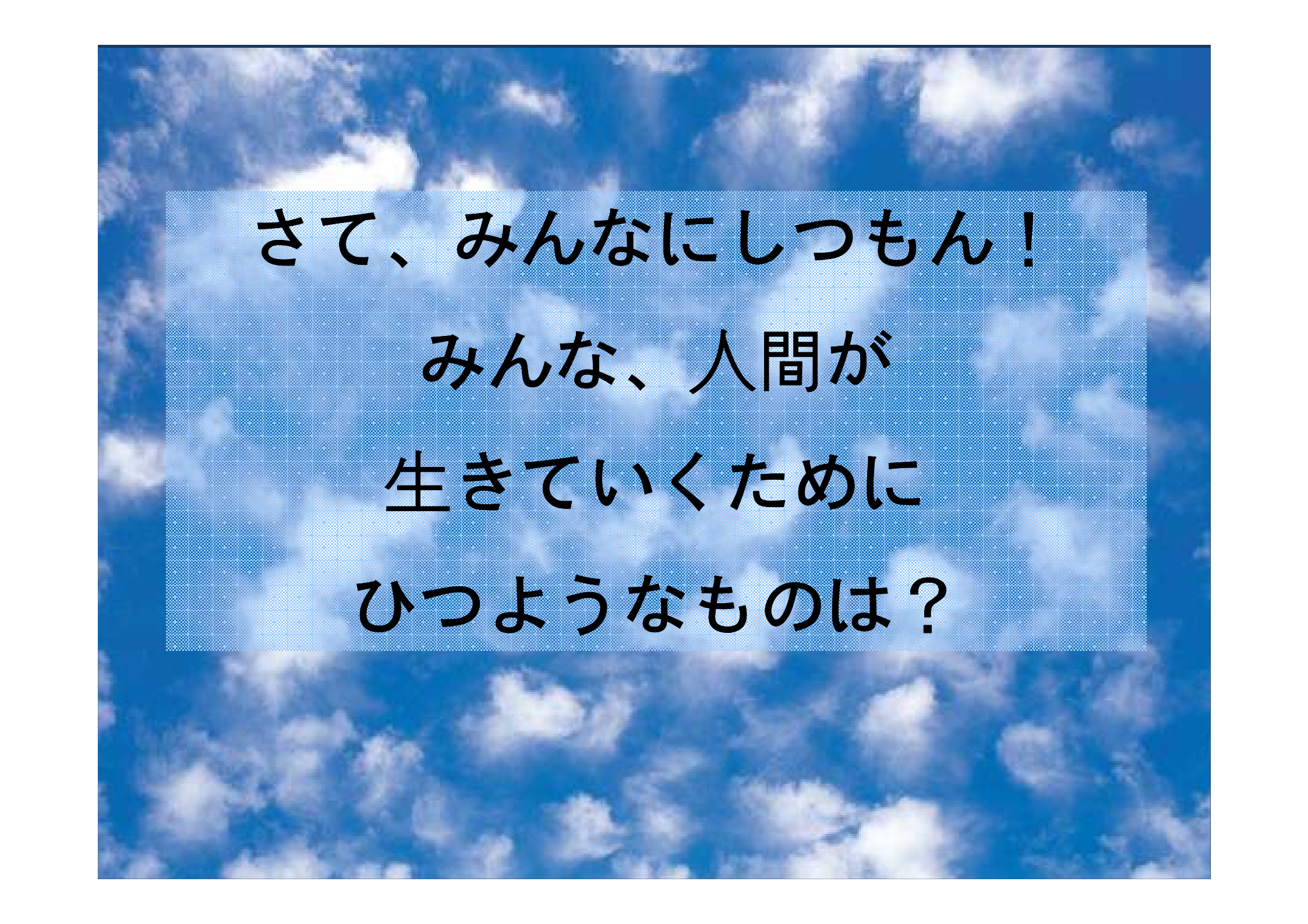


きょうはみんなに
「ちきゅうとかんきょう」の
おはなし をします！



さて、みんなにしつもん！

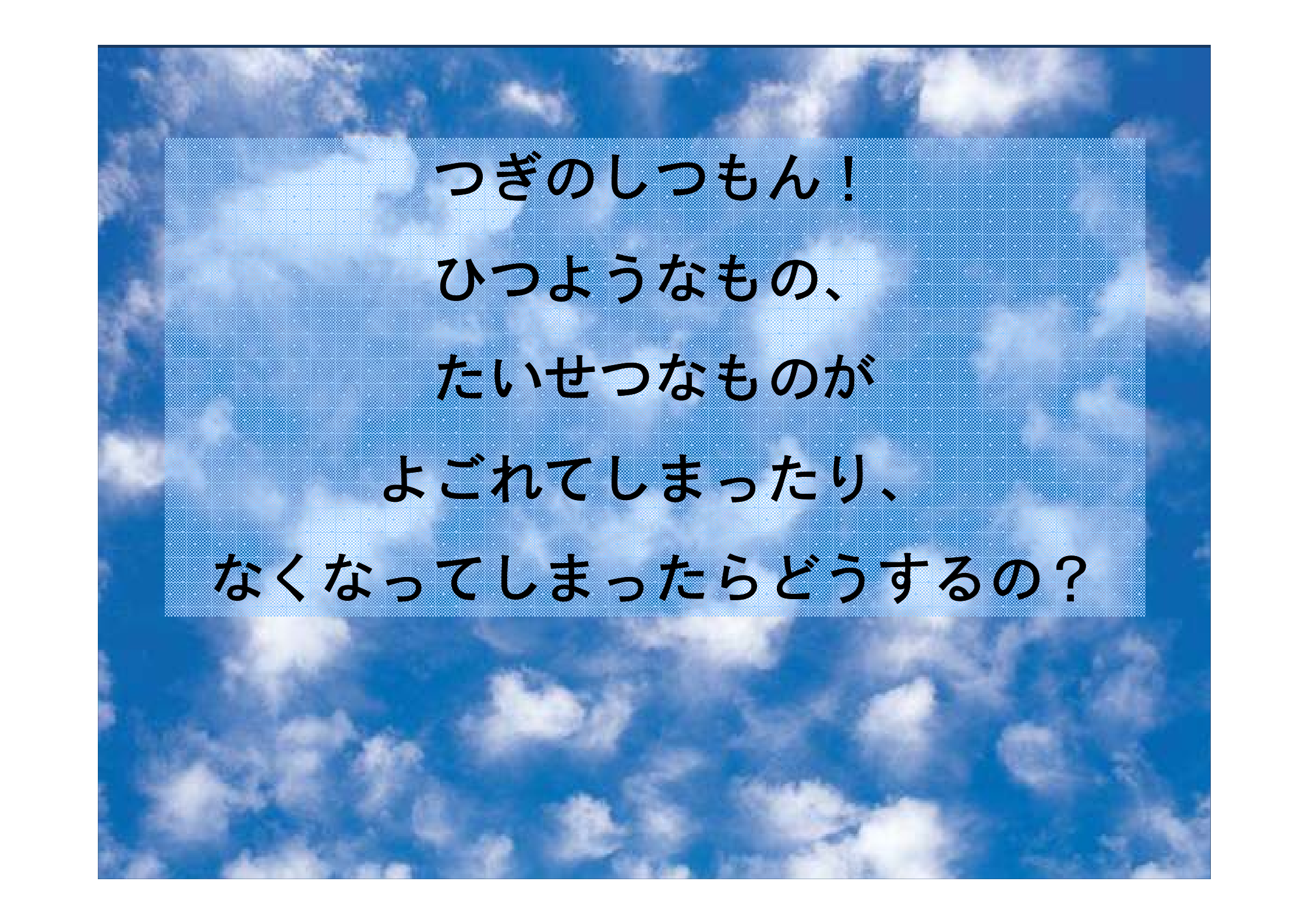
みんな、人間が
生きていくために
ひつようなものは？





みず、つち、しょくぶつ、どうぶつ
たべもの、でんき…。

ぜんぶ ちきゅうにあるもの。
ちきゅうにあるしぜんやしげんで
作られたものです。



つぎのしつもん！
ひつようなもの、
たいせつなものが
よごれてしまったり、
なくなってしまうたらどうするの？

にんげんが、みずやつちをつかってよごしても、ちきゅうのもつちから、しぜんのちからでもとにもどすことができた

●うみがよごれたら、アサリがきれいに
する。

●つちがよごれたら、ちいさなびせいぶつが
ぶんかいしてきれいにする。

●にさんかたんそを、森の木がさんそにする。

だけど、

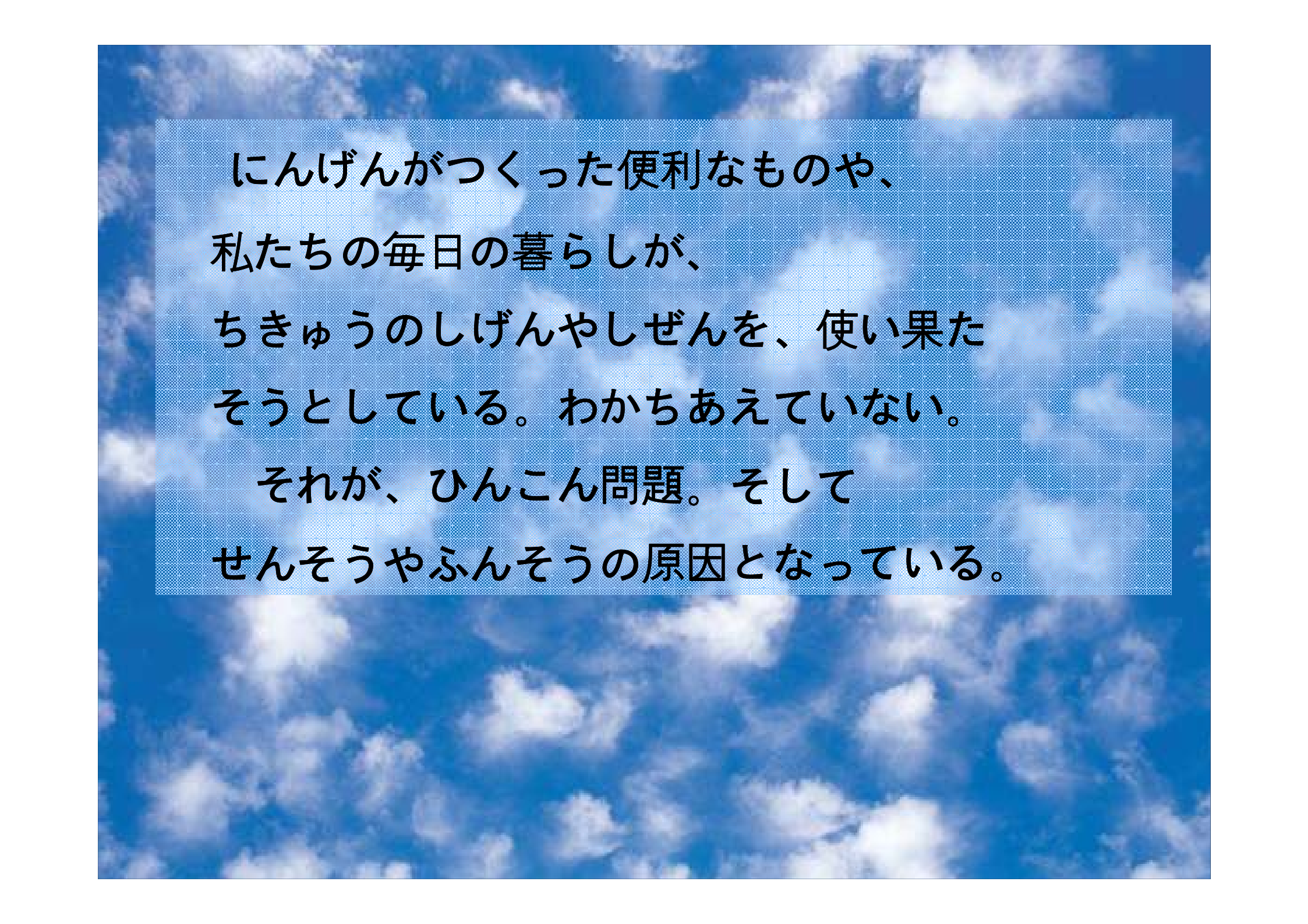
にんげんがつくった 便利なもの、
私たちの毎日の暮らしが、
海や川、土、空気をよごして、いきもの
がすめなくなってしまうている。

なかなか もとに もどらなくなってい
ました。それが、かんきょうもんだい。

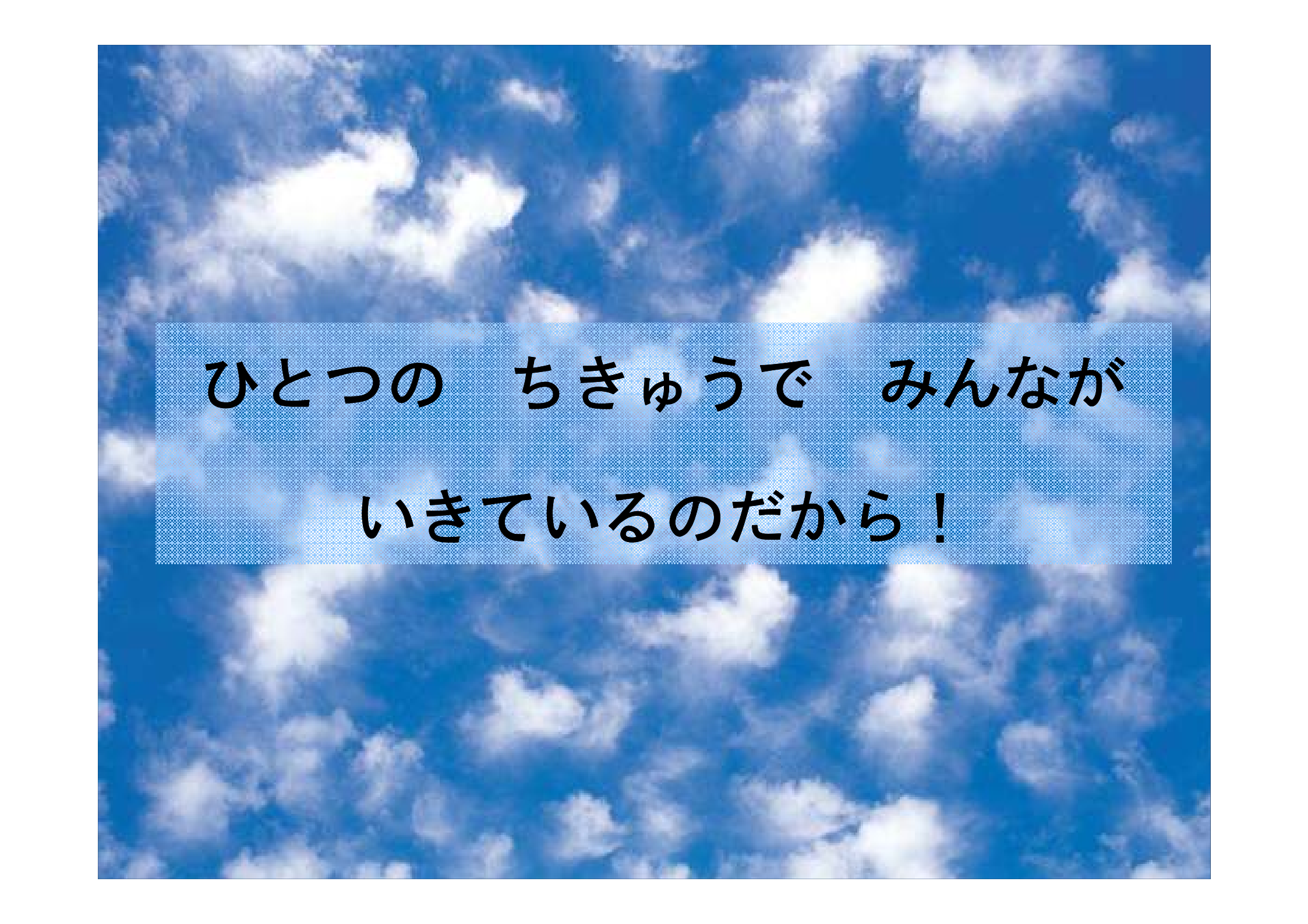
「私たちのいのちは、
地球にまもられている」

だけど、

「私たちは、地球をよごしている。
なかなかもとにもどらなくなるほど」



にんげんがつくった便利なものや、
私たちの毎日の暮らしが、
ちきゅうのしげんやしぜんを、使い果た
そうとしている。わかちあえていない。
それが、ひんこん問題。そして
せんそうやふんそうの原因となっている。



ひとつの ちきゅうで みんなが
いきているのだから！



だから ESD

地球の有限な資源をうまく使って、
今生きる人、未来を生きる人が安心して、
幸せに暮らすことのできる社会を
つくらなければならない。

そのための「全ての人々の学び合い」

それが ESDである。

「未来へと持続する社会をつくる」

ための教育がESDである。



ESD

持続可能な開発のための教育
じぞくかのうなかいはつのためのきょういく

■国際動向

2002年 ヨハネスブルグサミット
日本政府提案「持続可能な開発のための
教育（ESD）の10年」

ESDの歴史

国際動向

2005年 国連持続可能な開発のための教育の10年
スタート
ユネスコ「国際実施計画」を策定

2005年 ESD関係省庁連絡会議の設置

2006年 ESD国内実施計画の策定

2009年 ESD世界会議（ボン）

2012年 リオ+20 ESDの重要性を再確認

2014年 国連ESD最終年会合（愛知・名古屋・岡山）

持続可能な開発の教育／持続発展教育「ESD」とは

参照：内閣官房「国連持続可能な開発のための教育10年」関係省庁連絡会議 ホームページより抜粋

「持続可能な開発」のためには、一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革することが必要とされており、そのための教育が、「持続可能な開発のための教育／持続発展教育（Education for Sustainable Development以下「ESD」）」です。

ESDの目標は、すべての人が質の高い教育の恩恵を享受し、また、持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれ、環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすことです。

我が国は、

「国連持続可能な開発のための教育の10年 国内実施計画」を策定（2006年・2011年改訂）

関連する施策に、

- 持続可能な開発を可能な限り織り込むこと
- ESDがあらゆる場所で多様な主体により取り組まれること

を推進方策とし、提案国として、地域、国、国際レベルで行動し、必要な役割を担うことを示している。

文部科学省は、

教育振興基本計画（2008年閣議決定）にESDの理念を盛り込み、学習指導要領の改訂において、ESDの理念に沿った学習内容の充実を図るなど、我が国の教育制度の中でESDの取組を一層進めるための基盤を醸成しつつある。

多くの学校において、総合的な学習の時間などで環境や国際理解をテーマとした学習が行われており、今後、教育振興基本計画や学習指導要領を踏まえ、ESDの観点から様々な課題を総合的に取り扱う、具体的な学習活動の充実強化が求められている。

ユネスコスクールにおけるESD実践に普及を進めている。